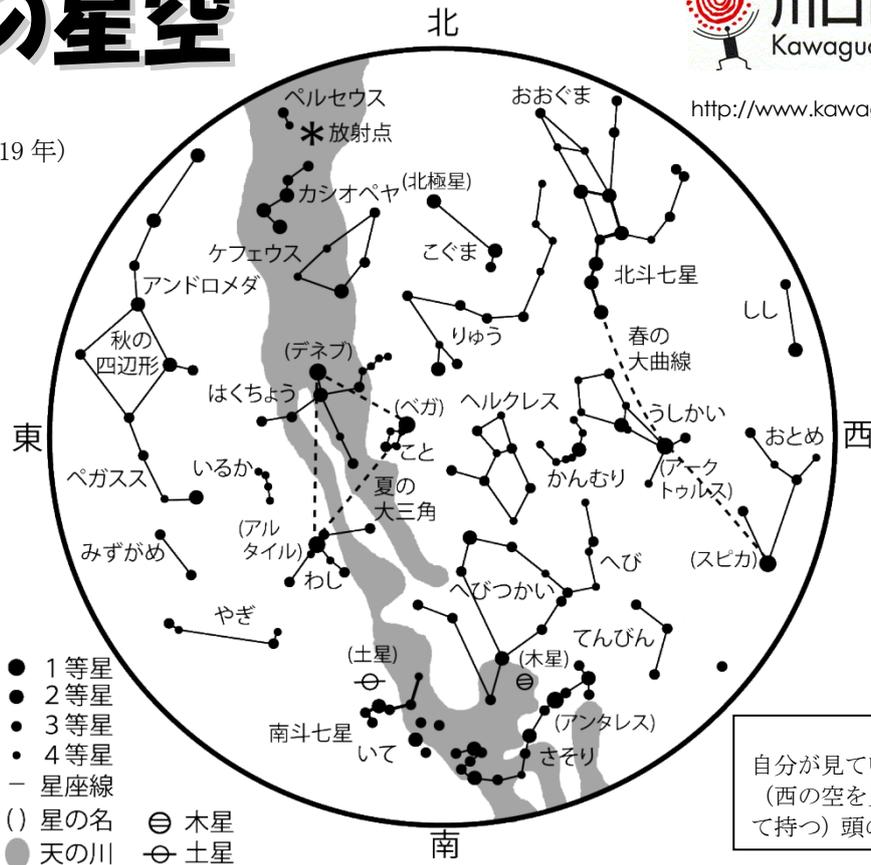


今月の星空

8月 (2019年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 1 日、30 日 ○ 上弦 8 日、○ 満月 15 日、● 下弦 23 日
惑星情報 木星 夜のはじめ頃 南→南西(へびつかい座 -2 等級)
土星 夜のはじめ頃 南(いて座 0 等級)

☆3 大流星群のひとつ、ペルセウス座流星群を見よう(極大 13 日 16 時頃)

ペルセウス座流星群が 13 日 16 時頃に極大となります。観察にオススメの日は、極大前後の 12 日と 13 日の夜、時間帯は放射点が高くなる深夜から明け方までです。今年は、極大時刻が日中であることと 15 日に満月となる月がほぼ一晩中出ていることから、観察できる流星数は、最大で 1 時間あたり 10 個程度と控えめの予想です。ただし、12 日の夜については、日付が変わった 13 日午前 2 時半頃に月が沈むため、2 時半から夜が明け始める 3 時半頃までが、放射点もより高く好条件となります。空の暗いところでは、1 時間あたり 30 個程度見られる予想です。

☆木星・土星は大きい?小さい?望遠鏡で確かめてみよう!

太陽系の惑星で、大きさ No. 1、2 を誇る木星と土星は、望遠鏡で見ると、どれくらいの大きさで見えるのでしょうか。

右図は、ある倍率で見たときの望遠鏡の視野円と月・木星・土星の見た目の大きさを比べたものです。図のように、木星や土星が小さく見えるのは、その距離と関係があります。下表は、各天体の大きさと地球からの距離を表したものです。数億 km 彼方にある巨大な木星と土星を望遠鏡で捉えて、木星の模様や土星の環を観察してみませんか。
※8/10(土)・11(祝)に特別観測会「木星・土星」を開催します。

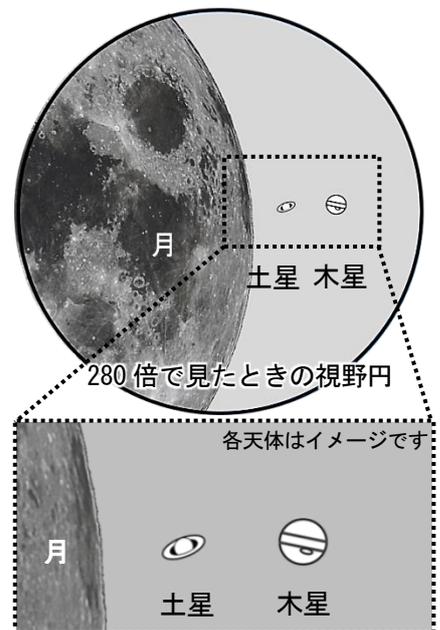


表 各天体の大きさと距離 (2019/8/10 のデータ)

天体名	直径[km] (地球との比較)	見た目の大きさ [” 秒角]	地球からの 距離[km]
地球	12,756 (1)	—	—
月	3,474(0.27)	1,848(30.8分角)	39万
木星	142,984(11.2)	41.6	7億1千万
土星*	120,536(9.5)	18.2	13億8千万

※土星の大きさは環を除いたもの

図 280 倍の倍率で見たときの
視野円と天体の大きさ

(参照: ストラビゲータ/AstroArts)